

令和7年12月2日

関係各位

講演会“低平地に関連する地盤工学の最近の話題”のご案内(差し替え)

主催 低平地研究会基盤整備専門部会
共催 佐賀大学理工学部都市工学部門
地盤工学会九州支部佐賀地区活動
後援 木材利用研究会

拝 啓

益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび、「低平地に関連する地盤工学の最近の話題」に関するテーマについての講演会を開催いたします。今回は、株式会社ワイビーエム 眞崎照吉氏、木材利用研究会（佐賀） 福岡 仁氏をお招きし、圧密沈下計算事例や佐賀の低平地における木材利用事例などについてご講演いただきます。年末でご多用中のことと存じますが、お誘い合わせの上、御出席を賜りたくご案内申し上げます。

敬具

記

日時 : 令和7年12月19日(金) 13:00~17:00
場所 : 佐賀大学本庄キャンパス 理工学部6号館都市大講義室
<http://www.saga-u.ac.jp/gaiyo1/campusmap/index.html>
参加費 : 無料

開会挨拶 13:00 ~ 13:05 佐賀大学 根上武仁 氏

講演① 13:05~13:55
有明海沿岸道路盛土の一次元圧密による沈下試算について

株式会社ワイビーエム 眞崎照吉 氏

休憩 13:55 ~ 14:05

講演② 14:05 ~ 14:55
木材利用研究会（佐賀）の”これまで”と”これから”

木材利用研究会（佐賀） 福岡 仁 氏

休憩 14:55 ~ 16:05

講演③ 16:05 ~ 16:55
佐賀市南部の液状化危険度予測に関する一考察

佐賀大学 根上武仁 氏

閉会挨拶 16:55 ~ 17:00 木材利用研究会（佐賀） 福岡 仁 氏

※参加希望の方は、1)氏名、2)会員番号(該当の方のみ)、3)所属、4)連絡先記載の上、電子メールにてお申し込みください。
※お車で佐賀大学へお越しの場合、入構料が必要です(1時間無料,以後100円/時間)。南部バイパス側より入構してください。
※G-CPDポイントは2.5です。低平地研究会会員の方で申請書+参加証明書が必要な場合は、参加申込の際におしらせください。(CPD取得申請関係は低平地研究会会員の方のみ承ります)

申し込み先: 低平地研究会事務局 電子メール: lora@lora-saga.jp

問い合わせ: 佐賀大学 理工学部理工学科 根上武仁(低平地研究会基盤整備専門部会長)
電話 0952-28-8695 Fax. 0952-28-8699 E-Mail: negamit@cc.saga-u.ac.jp

講演会“低平地に関連する地盤工学の最近の話題”(令和7年12月19日)

発表者・講演タイトル・概要

講演①

タイトル : 有明海沿岸道路盛土の一次元圧密による沈下試算について

講演者 : 株式会社ワイビーエム 眞崎照吉 氏

概 要

軟弱地盤上の中・高盛土である有明海沿岸道路の設計において、沈下量等の算出に二次元FEM解析が用いられている。この手法は、盛土部、周辺地盤および周辺構造物等の鉛直水平変位、地盤に構築された改良体の応力状態などを同時、時系列的に算出するために有効である。ただし、この手法の活用には、解析ソフトを有し、ある程度の専門的な知識が必要である。本報告では、二次元FEM解析の代わりに一次元圧密による圧密沈下量を重視した試算を行った結果について紹介する。試算結果と同一モデル地盤での沈下量の二次元FEM解析との比較、さらに橋台背面盛土部の沈下量を示し、事前設計段階での一つの手法としての活用性を提案する。

講演②

タイトル : 木材利用研究会(佐賀)の”これまで”と”これから”

講演者 : 技術士(建設部門)所属: 木材利用研究会(佐賀)副会長 福岡 仁 氏

概 要

木材利用研究会(佐賀)は、2004年に活動を開始して21年が経過する。研究会の目的は、木材の土木利用に対する技術の伝承と木材の有効利用による森林保全と防災、森林産業の健全化、低平地と里山の連携、CO2削減による地球環境保全への貢献である。これらの目的に沿って、木杭基礎の設計マニュアルの作成や現場での実証試験が行われ、その成果について国内外のシンポジウムを通じて情報発信を行ってきた。本講演では低平地に着目し、研究会のこれまでの研究成果の紹介と今後の活動の方向性について述べるものである。

講演③

タイトル : 佐賀市南部の液状化危険度予測に関する一考察

講演者 : 佐賀大学 根上武仁 氏

概 要 :

近年、各地で大規模な地震が頻発しており、地盤の液状化について市民の関心が高まっている。佐賀市では、佐賀北縁断層帯による地震(震度7、マグニチュード7.3)を想定した解析に基づいて描かれたハザードマップが発行(2018)されている。液状化について考える場合、液状化しやすい砂層が堆積していることと、液状化により地上構造物が被害を受けること、の二つの事象は全く別物であることに注意が必要である。本報告では、佐賀平野の地層状況とこれまでの地震の発生状況から、佐賀市南部の液状化のリスク評価に関する考察について示す。